

○研究プロジェクト 「文化のゲートキーパー研究」

開催責任者 経営学部 川北真紀子
2022年7月～2023年3月

研究プロジェクトは以下のとおり、開催された。

◇研究目標

美術館など文化施設が、一般の鑑賞者とは異なるアンバサダーとなりうる人々を組織化するプログラムがいくつか見られる。そのひとつである、アートコミュニケーターに焦点をあて、彼らがどのような役割を担っているのかについて、明らかにすることを目的とする。本年度は、その実態がいかなるものかについて把握するために、彼らが実施するプログラムへの参加や担当者へのヒアリングを行う。

◇研究プロジェクト日程

2022年7月25日(月) アートコミュニケーター取材 岐阜県美術館

岐阜県美術館 学芸員 鳥羽都子氏、南山大学 川北真紀子の2名による取材

取材対象者は岐阜県美術館のアートコミュニケーター2名である。S氏は、おしゃべり鑑賞会、鑑賞フレンドなど活動多数であり、岐阜県美術館サポーターとしても長年活動している。K氏も鑑賞フレンドなどの活動が多数ある。ベテランのアートコミュニケーター2名から話を伺うことができた。

2022年8月29日(月) 研究打ち合わせと研究会 ウィンクあいち 905

IKIGAI WORKS 代表 熊倉利和氏、南山大学 川北真紀子の2名で打ち合わせ

「広報のゲートキーパーとしての機能」について、ファイブグループの事例についてディスカッションをした。同日、広報学会中部部会での「オープン社内報とコミュニケーション効果」の研究発表も実施した。

2023年2月25日(土) アートコミュニケーター取材 岐阜県美術館

南山大学 川北真紀子による取材

岐阜県美術館 濱野かほる氏、近藤優紀氏、アートコミュニケーター 6名とのグループインタビューを実施。「おしゃべり鑑賞会」実施後に、活動について、アートコミュニケーター活動を始める前と後とでどのように意識や行動が変化したかについて、また、卒業後の活動予定についてもヒアリングができた。

◇研究プロジェクト内容

岐阜県美術館のアートコミュニケーター「～ながラー」への取材を行うことができた。そこで明らかになったのは、以下の点である。

1回目の取材では、「おしゃべり鑑賞会」の経験者から話を聞くことができた。1名は、それまでボランティアとして活動しており、さらに活動を深めたいと、～ながラーへ参加していた。1名は、名画好きから活動への興味を示し、美的価値観が進化している様子が伺えた。アートコミュニケーターとしての活動が、3年間の「～ながラー」の卒業後の活動へとつながっていきそうであることも語られた。これらのアートコミュニケーターの活動が地域のプロデューサーを育てている可能性が見られた。

2回目の取材では、6名の参加者がアートコミュニケーターの経験を経て、様々なネットワークを獲得するだけでなく、自らの活動に自信をもち、様々な可能性を見つけていくさまが見られた。中には、大学に通うようになった参加者もいた。

ここからわかるのは、岐阜県美術館の職員だけでは壁があるところを、一般市民であるアートコミュニケーターが交流をファシリテーションすることにより、鑑賞者がより楽しんでいる様子が伺えたことである。アートを通して、「～ながラー」が交流の要としての役割を担っていると考えられる。

さらに、企業とコミュニティの間を担うという点で、熊倉氏とのワークショップも行った。地域の人々が、組織と良好な関係を築いている事例について検討した。これは次年度の研究につなげていきたい。

◇研究成果発表

川北眞紀子・菌部靖史、「メディアとしてのアートプレイスー芸術支援のパブリック・リレーションズにおける役割ー」、マーケティング・ジャーナル、2023年3月。